



アジア経済研究所 図書館の海外資料購入

日本貿易振興機構
アジア経済研究所図書館
狩野修二

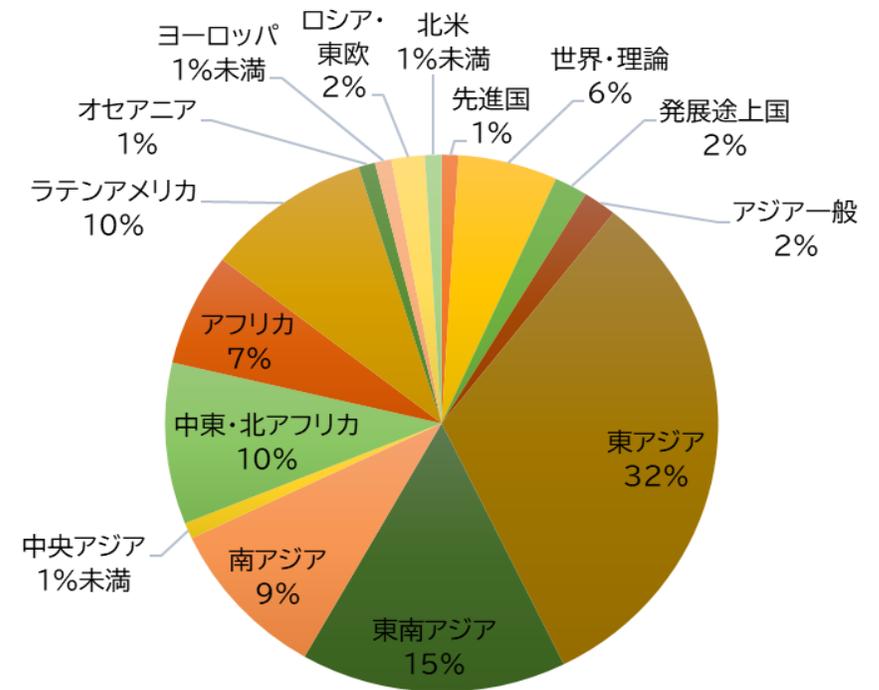
目次

- アジ研所図書館紹介
- アジ研図書館の資料収集
- 海外資料購入をする理由・問題点
- まとめ

アジア経済研究所図書館紹介①

- 開発途上国・地域の資料、約70万冊を所蔵。
- 言語別では、英語・日本語・中国語の順に多い
- 収集対象地域は、アジアだけでなくアフリカ、ラテンアメリカも対象

→ アジ研の英語名称=Institute of Developing Economies



アジア経済研究所図書館館蔵書構成

アジア経済研究所図書館紹介②

- 職員は担当業務以外に担当地域を持っている
(選書・レファレンス・図書館見学等を担当)

中華圏 4 名、朝鮮半島 2 名、東南アジア 3 名、南アジア 1 名

中東・北アフリカ 2 名、中央アジア 1 名 (兼務)、アフリカ 1 名、
ラテンアメリカ 2 名

システム 2 名

アジア経済研究所図書館紹介③

- **総括班**（8名）

資料購入・受入、予算・庶務関連

本日お話し
する部分

- **情報発信班**（9名）

目録、分類件名、デジタルアーカイブ、リポジトリ、ウェブサイト

- **情報サービス班**（4名）

閲覧、レファレンス、見学、資料保存

アジア経済研究所図書館の資料収集①

本日お話する
部分

- 購入（国内・**海外**）
- 寄贈、交換（国内・海外）
- 海外出張、在外派遣時購入（図書館職員・研究者）
- 他部署からの移管
- JETRO海外事務所予算配賦（タイ、フィリピン、ブラジル）

アジア経済研究所図書館の資料収集②

- 海外直接購入はアジ研図書館に特徴的な収集方法？

→国立大学では1980年代後半頃から海外直接購入の議論が。

森茜、大場高志「外国図書の海外直接購入について—国立大学図書館における一方法—」『大学図書館研究』 Vol. XXXVII (1991): 44-52. DOI: <https://doi.org/10.20722/jcul.883>

→私立大学ではもっと実施されているかも。

アジア経済研究所図書館の資料収集③

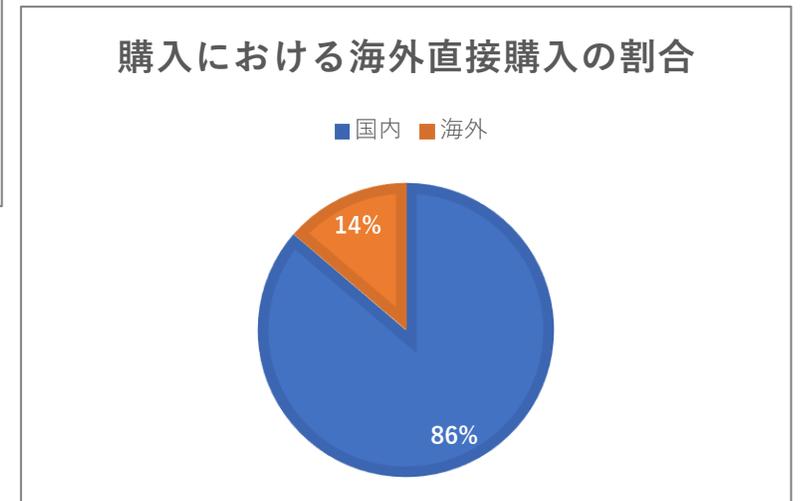
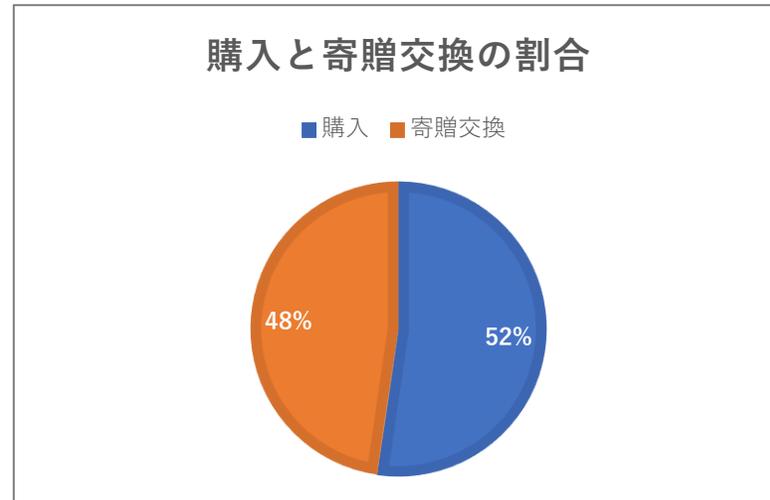
- 資料収集における海外資料購入の割合

雑誌・新聞 511誌

国内購入：330誌

海外購入：49誌

寄贈、交換：152誌



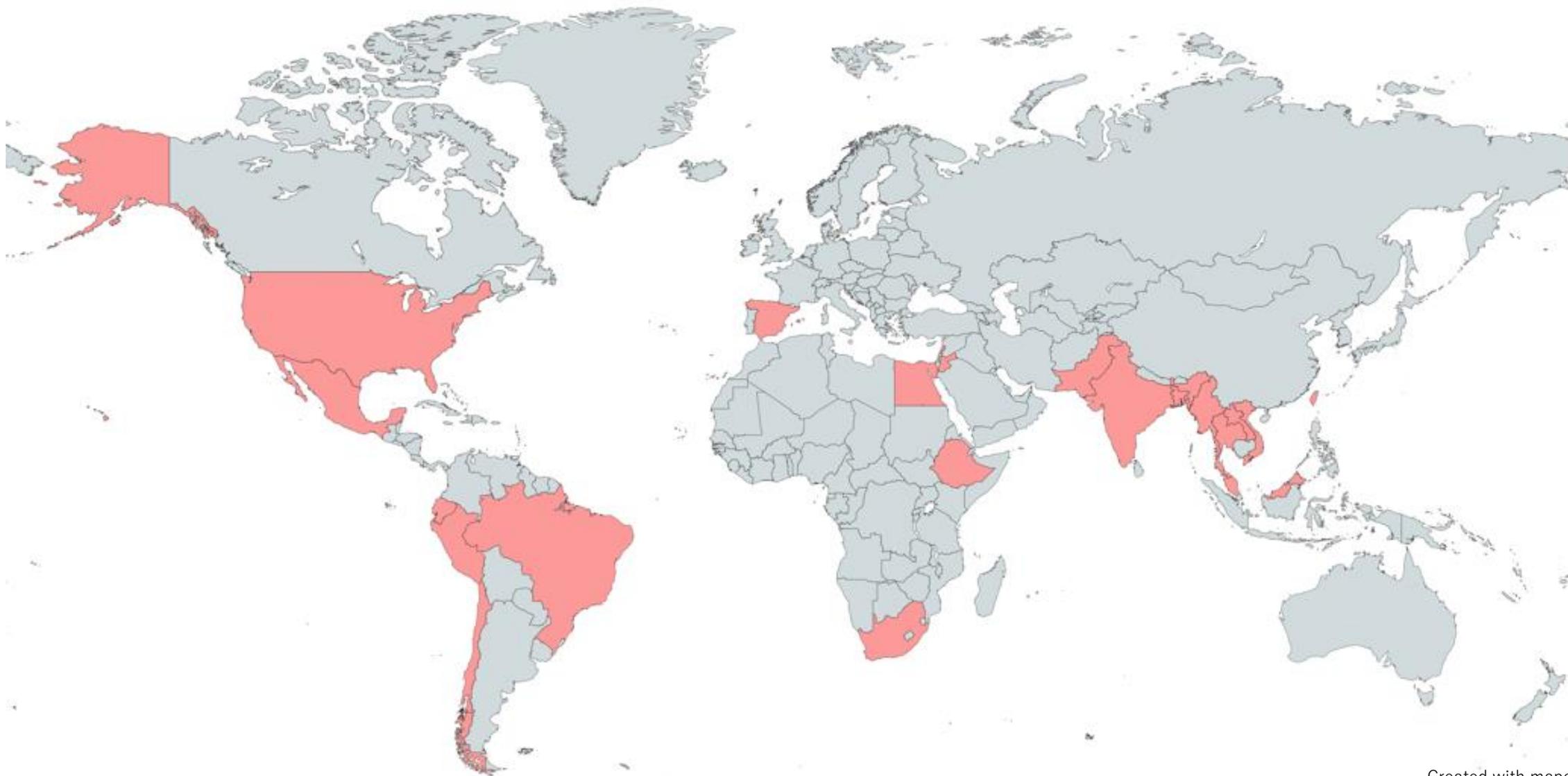
アジア経済研究所図書館の資料収集④

海外直接購入業務担当者・取引国

- 職員1名、派遣職員1名
- 購入先対象国：20か国・地域（2023年度）

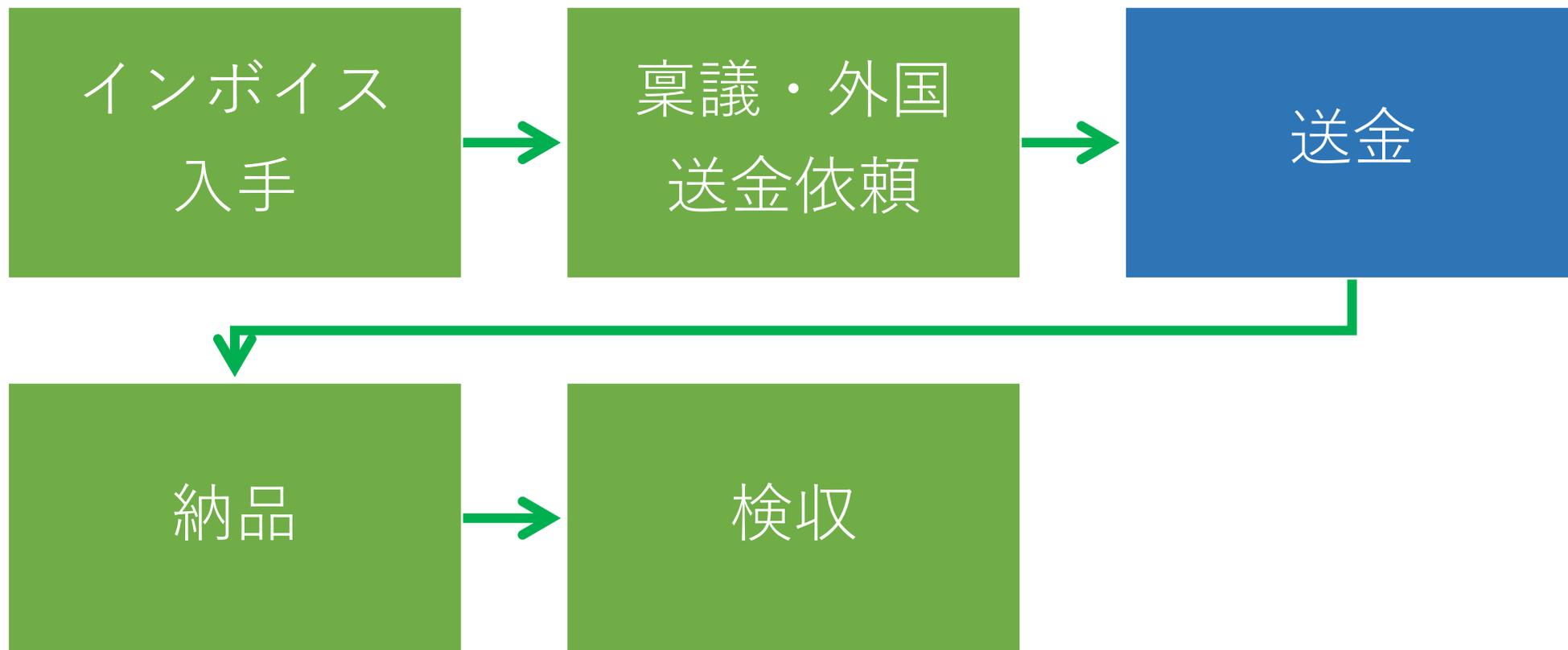
東アジア	台湾
東南アジア	ベトナム、ミャンマー、ラオス、マレーシア
南アジア	インド、パキスタン、バングラデシュ
中東・北アフリカ	エジプト、ヨルダン、レバノン
アフリカ	南アフリカ、エチオピア
ラテンアメリカ	エクアドル、ペルー、チリ、ブラジル、メキシコ
その他	アメリカ、スペイン

海外直接購入取引国・地域



アジア経済研究所図書館の資料収集⑤

- ・ 購入手続き



海外直接購入をする理由

- 国内代理店では取り扱いのない資料の入手
- より安価に資料入手が可能
- 創設当初から海外直接資料を実施
- 海外の資料事情の把握

海外直接購入の問題点①

- トラブルが発生した際の対応が難しい。
 - ①海外書店（音信不通、未納、送金問題等）
 - ②運送会社（通関業務）
 - ③所属機関内（厳格な経理処理）

→既存・新規、可能な限り国内業者に変更

海外直接購入の問題点②

- 利点との相反
 - 海外直接購入担当者 ≠ 地域担当者(*)
 - 地域の資料事情を知る、という利点が減少
 - 手間に見合う資料なのか？
 - 安価 v.s. 労働コスト
 - 予算の削減もあるが、人員の減少もある
 - そもそも図書館職員が担うべき業務か？

参考：長谷川豊祐「外国出版物の購入方法」<http://toyohiro.org/hasegawa/yousho.htm#bm13r>

*ただし現在でも収集において各地域担当者に協力してもらうことはある（言語面、既存の関係性）

海外資料購入　まとめと今後の展望

- 海外直接購入の単純な拡大や維持は困難。

しかし、

- 国内で調達不可能な資料を購読するという役目は重要
- エリア・ライブラリアンが資料事情を把握する意味で業務としても有用（ただし効率の問題はあり）

→今後もアジ研図書館の特色ある蔵書構築のために、海外資料購入業務を継続していくことが望ましい。